

提 案 概 要

実施期日	8月1日(金)
部 会 名	中学校 技術・家庭(家庭分野) 部会

1 提案テーマ

『「生活を見通しよりよい生活を創造し社会の変化に対応する能力や実践的な態度を育てる学習指導と評価の工夫・改善」－実践的・体験的な題材や学習活動から学んだ知識の活用・探究を目指した授業づくり－』

2 題材 わたしたちの消費生活と環境

3 学年 第1・2・3学年

4 平成25・26年度神奈川県中学校教育課程研究会研究主題とのかかわり

- ・生徒の実態等を踏まえ、相互に有機的な関連を図り、系統的・総合的な学習の展開に配慮した題材設定の工夫
- ・実践的・体験的な学習活動、問題解決的な学習、言語活動の充実をめざした学習指導の工夫
- ・3年間を見通した指導計画、評価計画の作成と学習指導の工夫

5 学習指導要領との関連(内容項目)

第2章 第8節 技術・家庭 第2 各分野の目標及び内容〔家庭分野〕 2内容

- A 家族・家庭と子どもの成長(1)(3) B 食生活と自立(1)(2)(3)
C 衣生活・住生活と自立 (1)ウ(3)ア D 身近な消費生活と環境(1)(2)

6 実践に向けての課題意識

家庭科は最も家庭に密着していて「生きる力」をはぐくむために必要な教科である。時間数の削減により、実習時間が十分に確保できなくなったため、今まで以上に1つの題材から得られることが多くなるような工夫が必要である。また、短時間で完成でき、生徒が「達成感・充実感」を得られる実習題材の工夫が必要である。生徒の家庭での生活体験は減る傾向にあるが、ものづくりの体験は自主的・自発的活動を行うきっかけとなり、生徒の活用力や探究心の育成が期待できる。生活に必要なものは、自分で作成するより購入する方が簡単に手に入れることができる環境の中で、今までとは違った観点での実習の位置づけも必要になってきていると考える。生き生きとした生徒の活動ができる教科の一つとして、実践的・体験的な活動の充実を図りたいと考えた。

7 実践の概要

各題材での実践的・体験的な活動の可能性を探る。今回は、2年生で扱う題材の「わたしたちの消費生活と環境」を中心として考察した。学習指導要領にも身近な消費生活と環境の題材では他の題材と「相互に関連し総合的に展開できるよう配慮する」とある。家庭科は4つの内容に分かれているが相互に関連しているので、題材のとらえ方を学年ごとに積み上げていく工夫をしていくことで生徒への力の定着を図りたい。

本校では1年生では基礎的・基本的な知識や技術の定着をはかるために、教師側が提示した内容で調理実習や基礎縫いをし、2年生では調理実験や環境などを考えてお弁当作り、エコバッグ製作、エコたわしの製作を行い、3年生では1・2年生で学んだことを生かして、家族と楽しめるおやつ作りや、郷土料理等の課題解決型の実習を実施し、各学年における生徒のレディネスを考慮して工夫した。

8 成果と課題

実習を面倒だととらえていた生徒も、実習後は「やってみたらおもしろくなってもっとやってみたい」という感想や、友人のものをみて「自分も工夫し、更によりよいものを作りたい」等の感想をもち、向上心が感じられた。習ったものを友人や家族に披露することで自信をもって取り組めたり、家庭で更に完成度を高めたり、思った以上に、習得した知識を実生活の中で活用する姿が見られたため、今後も実習の機会を増やすことにより、更に実践力がつくような工夫をしていきたいと考えている。

しかし、実習を行うには材料を購入・分配する準備や、用具等の片付けに時間がかかり、教員のかかなりの負担になっている。技術・家庭科の教師が担当するクラス数は、どの学校でも多く、ワークシートや作品のチェックにも膨大な時間が必要となり、かなり厳しい現状である。できるだけ実践的・体験的な活動を取り入れた授業を行っていくためには、実習題材の検討や実習の評価のポイントの精選を考えていきたい。

9 予想される協議の柱

- ・短期間で完成できる実習題材 ・内容を重ねて学ぶことができる実習題材
- ・実習する時の準備の工夫